



## 相分離法を用いた膜状多孔質高分子生体材料の開発

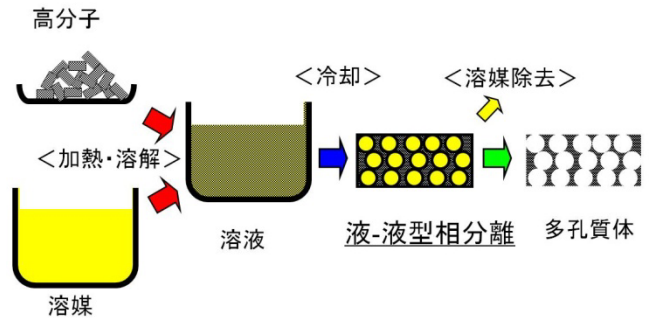
### 技術の特徴

生体材料への応用を目指してポリ乳酸などの生体吸収性ポリエステル多孔質膜やキチンゲルシート膜の開発を進めている。

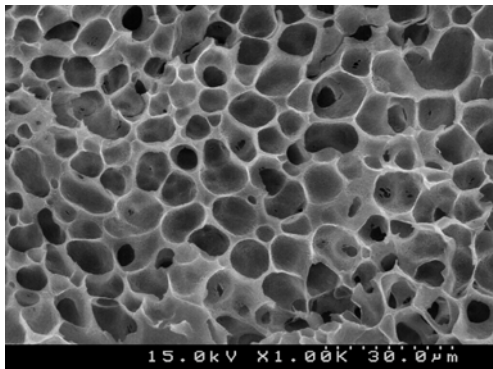
相分離法による製膜条件を検討することにより、孔径や多孔質構造の調節が可能である。

キチンゲルシートでは指サック状や分岐管状のものも作製が可能である。

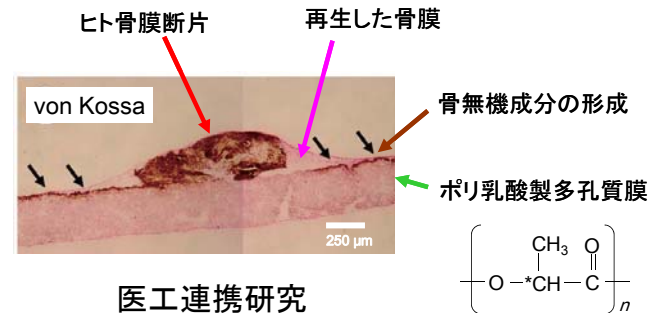
### 相分離法を用いた高分子材料の多孔質化技術



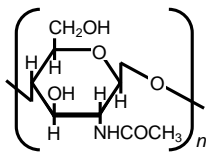
### ポリ乳酸製多孔質膜



### 再生医療用多孔質膜への応用



### キチンゲルシートの形状制御



指サック型  
(創傷被覆)



三叉分岐管  
(人工臓器)

### 多孔質化の利点

内表面の増大 → 細胞の足場材料

凹凸の形成 → 培養組織のアンカー

孔を利用した複合化 → 各種複合材料

・薬物徐放材料

孔を利用した透過制御 → 遮断膜・分離膜

力学的特性の改良 → 柔軟性の付与

本技術の問い合わせ先

新潟大学 産学地域連携推進機構

TEL:025-262-7554 FAX:025-262-7513 E-mail:onestop@adm.niigata-u.ac.jp